

今月はクリスマスの名作をご紹介します。

『愛蔵版 クリスマス・キャロル』

ディケンズ／作 脇 明子／訳 岩波書店 2009年 2205円

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★ 中学生★★☆
高校★☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

心が冷たく強欲で知られるスクルージは、クリスマス・イヴにもお祝いをせず金勘定ばかり。そんな彼のもとへ7年前に死んだ彼の仕事仲間マーレイの幽霊があわれ、3人のクリスマスの幽霊の訪問を告げます。幽霊になっても鎖にまかれ、魂がさまよい続けるマーレイのようにならないためには、この幽霊たちの訪問を受け入れるしかない。マーレイにそう言われたスクルージのもとに本当に現れた最初の幽霊は過去のクリスマスの幽霊でした。

<子どもに手渡すときのポイント>

日本よりクリスマスを祝う歴史の長い欧米の作品からは、ただケーキやごちそうを食べたり、プレゼントを渡したりするのではなく、隣人を思いやり、他の人の幸せについて考えるというクリスマスの根底にながれる気持ちが読者に強く伝わってきます。

今回は初版本の挿絵のついた(一部追加有。詳細はあとがきをお読みください。)岩波書店の愛蔵版でご紹介しました。これ以外にも同じ訳者の岩波少年文庫(一部挿絵に違い有)や、出版社注文不可ですが、吉田新一氏／訳の国土社版、同じく吉田氏訳 リスバート・ツヴェルガー／絵の太平社版などもありますので図書館でいろいろと読み比べてみてもよいかもしれません。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

